

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																		
ホンダ テクニカル カレッジ 関東		昭和51年2月21日		勝田 啓輔		〒356-8567 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5-2-2 (電話) 049-264-0121																		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																		
学校法人ホンダ学園		昭和51年2月21日		安部 典明		〒356-8657 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5-2-2 (電話) 049-264-0121																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース		—	平成18年文部科学省告示 第八十八号																			
学科の目的	学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、高度の一般教育と実践的専門的な技術及び理論を習得させ、開発に必要な知識及び実践力を備えた新時代に相応しい健全有意な国家二級自動車整備士を育成する事を目的とする。(開発・設計工学コース)																							
認定年月日	平成29年2月24日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																
4	昼間	一級自動車整備士 4146時間/開発・設計 工学4011時間/海外 インターンシップ3941時 間		一級自動車整備士1452.6時間/開発・設計工 学1696.2時間/海外インターンシップ1380.6時間	一級自動車整備士 82.8時間/開発・設計 工学0時間/海外イン ターンシップ788.2 時間	一級自動車整備士2712.6時 間/開発・設計工学2658.6時 間/海外インターンシップ70時 間	一級自動車整備士0時 間/開発・設計工学0時 間/海外インターンシッ プ70時間	一級自動車整備0時 間/開発・設計工学0 時間/海外インターンシ ップ70時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
600人の内数		261人	5人の内数	35人の内数	1人	36人の内数																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学習評価は、平常試験、期末試験を総合して評価し、60点以上合格とする。																			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月6日 ■夏季: 7月28日～8月16日 ■冬季: 12月29日～1月5日 ■学年末: 3月11日～3月31日			卒業・進級 条件	必須科目全ての履修完了、および 全ての試験に合格が課程修了の条件 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 入学前教育 クラス担任制、新入生オリエンテーション、定期的な個別面談 随時、成績不振者などへの個別対応、生活指導など			課外活動	■課外活動の種類 安全運転研修、献血、学園祭  ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、自動車 関連企業			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年7月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 個別面談による進路確認と就職先の斡旋 進路別説明会、社会人研修、企業説明会、企業セミナーの実 施。就職試験に向けた個別指導の実施				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級自動車整備士 (一級自動車整備 士コース対象)</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SE2級 (一級自動車整備 士コース対象)</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人 自動車保険単位 (一級自動車整備 士コース対象)</td> <td>③</td> <td>55人</td> <td>55人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級自動車整備士 (一級自動車整備 士コース対象)	②	29人		SE2級 (一級自動車整備 士コース対象)	③	29人	29人	損害保険募集人 自動車保険単位 (一級自動車整備 士コース対象)	③	55人	55人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																			
	一級自動車整備士 (一級自動車整備 士コース対象)	②	29人																					
	SE2級 (一級自動車整備 士コース対象)	③	29人		29人																			
	損害保険募集人 自動車保険単位 (一級自動車整備 士コース対象)	③	55人		55人																			
■卒業者数: (3コース全て)56 人			※一級自動車整備士コースの実績																					
■就職希望者数: (3コース全て)56 人																								
■就職者数: (3コース全て)56 人																								
■就職率: 100 %																								
■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %																								
■その他																								
(令和元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)																								
中途退学 の現状	■中途退学者 8 名 令和2年4月1日時点において、在学者462名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者450名(令和3年3月31日卒業者を含む)(自→研、研→自転科含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・病気・意欲喪失等			■中退率 1.73 %																				
■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携(連絡、および三者面談の実施)、留学生についての日本語フォロー 学生相談室(カウンセラー) 自動車業界への興味喚起																								

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有          ※ホンダ学園賛助会奨学金(2020年度実績 前期46名、後期45名。学費+分…一級科/自整科→495,000円 国際科→597,000円(いずれも無利子)を貸与。          別途、寮費分…男子→144,000円 女子→216,000円(いずれも無利子)を貸与可。          ■専門実践教育訓練給付: 非給付</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無          ※有の場合、例えば以下について任意記載          (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/">http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程編成を定期的に行うことを基本に展開を図る。また、企業実習などを通じ、学校では学びきれない実践力を養うと共に、卒業生満足度調査を実施し、企業が求める人材要素や教育弱点領域の把握を行い、教育課程への反映を行うものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 校長は当年度の教育課程編成を本校関係者により組織した教育課程編成委員会(以下「編成委員会」という。)に報告し、意見を聴取し、その意見を尊重し、教育活動に活用する。

① カリキュラムの改善のため委員会を設置	② カリキュラムの改善への意見を提案	③ 組織としてカリキュラムの改善を検討・決定	④ 決定内容に応じてカリキュラムを改善	⑤ 実施結果を検証
----------------------	--------------------	------------------------	---------------------	-----------

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中妻 茂【整備系全般担当】	一般社団法人埼玉県自動車整備振興会	R2年4月1日～R4年3月31日	①
鈴木 尚也【一級自動車研究開発学科(研究開発学科)担当】	株式会社 ホンダテクノフォート	R2年4月1日～R4年3月31日	③
富田 英則【自動車整備科(サービスエンジニア学科)担当】	株式会社 ホンダカーズ久喜	R2年4月1日～R4年3月31日	③
中村 純一【一級自動車研究開発学科(1級自動車整備学科)担当】	株式会社 ホンダプロモーション	R2年4月1日～R4年3月31日	③
勝田 啓輔(委員長)	ホンダテクニカルカレッジ関東 校長	R3年4月1日～R5年3月31日	
山口 靖之	ホンダテクニカルカレッジ関東 教頭	R2年4月1日～R4年3月31日	
達富 由樹	ホンダテクニカルカレッジ関東 教務部長	R2年4月1日～R4年3月31日	
熊原 文人(事務局)	ホンダテクニカルカレッジ関東 サービスエンジニア2課課長	R2年4月1日～R4年3月31日	
嶋 健司	ホンダテクニカルカレッジ関東 サービスエンジニア1課課長	R2年4月1日～R4年3月31日	
中野 健二	ホンダテクニカルカレッジ関東 開発エンジニア課課長	R3年5月1日～R5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)  
 ②学会や学術機関等の有識者  
 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

令和2年度2回開催・令和3年度2回開催

(開催日時)  
 (令和2年度)第1回 令和2年6月12日 15:00～17:00  
 (令和2年度)第2回 令和2年6月24日 15:00～17:00  
 (令和3年度)第1回 令和3年5月28日 15:00～17:00  
 (令和3年度)第2回 令和3年6月18日 15:00～17:00

(5)教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
 教育課程編成委員会におけるカリキュラム等の検討内容として  
 ① 退学率目標 3%に向けた取組み→1)コロナ感染症拡大に伴いWeb授業による理解度不足から意欲減退防止のため、個別に勉強フォロー実施、2)企業推薦者は、企業との連携 3)留学生経済困難者就職先との連携フォロー、  
 ② 就職一発内定率 100%に向けた取組み→就職先情報データベース化、就職3カ月前倒し自己分析企業研究早期化。  
 ③ 一級登録試験 100%合格に向けた取組み :分野別に偏差で管理し弱点の見極め実施。分野別に目標を決め、進捗管理。  
 ④ 二級登録試験 100%合格に向けた取組み :低学力/応用力欠如者顕在化し、個別勉強指導。  
 ⑤ CS結果に対する対応について e-dealer(ホンダ・サービスフロントのシステム)時間増。お客様説明のロープレ強化。販社システム新規導入提案。  
 ⑥ 開発・設計工学コースに育成像実現の為、設計・加工・CATIA科目で連携した実践授業を新設。  
 ⑦ 次年度から始まる、1級自動車整備学科・研究開発学科・サービスエンジニア学科について背景～目的等を共有、賛同を得る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 就職先の事前にインターンシップを通じて、企業の実務を知り、学生時代に習得する必要な知識を知る。CS卒業生満足度調査においての弱点領域や点検整備など実践力不足に関して学生自らが気づく必要がある。また内定後の安堵感による気の緩みなどから就職までに備えなければならぬことを実行できない学生が多い。就職先の現場を経験することで実社会の厳しさと自らの弱点を知り、卒業までの課題を自覚すると共に内定先からの期待を認識し、今後の学習意欲を喚起する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
 就職内定先企業、または提携企業にて現場実習を行う。合わせて研修学生は実習先へ研修レポートを提出し、企業から考課表にて評価を頂くと共に科目評価とする。(対象科目:体験実習)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
体験実習(行事)	全員対象にて、アビスト講師をお招きし、実社会において実施されている実践的な業務内容(CATIA-V5を用いた実践的な3Dモデル作図)を知り、必要とされるスキルと手法を理解し習得する。	株式会社アビスト

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 学則細則より  
 (教職員の研修)  
 第5条 教員は、校長の指示により、その専門分野における実務能力の向上及び指導力の修得・向上のために必要な研修を定期的に受けるものとする。

(2)研修等の実績  
 水  
 1)本田技研工業(株)主催 新機種技術研修(2019年9月2日(新機種Honda e)1名、2021年4月7日(新型VEZEL)に1名参加。ホンダが新しく市場に売り出した機種について、教員が新機種・新技術を理解することができる。結果、学生に教えていく新機種・新技術の基礎理解の場である。)  
 2)本田技研工業(株)主催 販社向け 筆記合格者向け、国家1級取得に向けた、実技勉強会開催 2020年10月15・16日1名、22・23日1名各参加。  
 ②指導力の修得・向上のための研修等  
 1)埼玉県専修学校各種学校協会主催の専修学校教員研修会(2020年はコロナ感染症拡大の為に不参加。専修学校教職員の資質向上と教育内容充実のため、さらに効果的な職業教育を実践する。教育原理など教育の基本的知識に加え、学生とのコミュニケーションについて実践的に学べる。基本2年間履修。)  
 2)全国自動車整備専門学校協会主催 JAMCA教職員夏季研修会(2019年・2020年コロナ感染症拡大のため開催中止。教育心理、授業運営技法、コーチング・コミュニケーション技法、グループディスカッションとテーマ発表など、教員のスキル向上、参加者相互の研鑽および情報交換)

(3)研修等の計画  
 本田技研工業(株)における新機種技術研修(新型CIVICを予定。ホンダが新しく市場に売り出した機種について、教員が新機種・新技術を理解することができる。結果、学生に教えていく新機種・新技術の基礎理解の場である。)  
 ②指導力の修得・向上のための研修等  
 1)埼玉県専修学校各種学校協会主催の専修学校教員研修会(専修学校教職員の資質向上と教育内容充実のため、さらに効果的な職業教育を実践する。教育原理など教育の基本的知識に加え、学生とのコミュニケーションについて実践的に学べる。基本2年間履修。2021年7月3日、13日、21日に参加予定1年目教員5名、2年目履修2名参加予定。)  
 2)全国自動車大学校整備専門学校主催の教員研修コロナ感染症拡大により中止(自動車の専門学校に教員として赴任した先生を集め、自動車整備に関する効果指導を習得するために効果的な指導方法を学ぶ宿泊研修)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針  
 学則に照らし建学の精神・育成方針に沿った年度毎の重点施策、学生生徒の状況、教育課程・学習指導、教員の状況について自己評価表を用い、自己評価を実施し、学外からの適正な評価を受けるため、学外者を含んだ学校関係者評価委員会を組織し、実施した自己評価を検証する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の志・学園の目的・教育方針 年度における重点課題
(2)学校運営	3ヵ年計画及び方針と目標(重点課題)
(3)教育活動	教務部方針及び重点課題対応施策
(4)学修成果	就職内定率・資格取得率・退学率・休学率・社会的な活躍及び評価
(5)学生支援	進路指導・学生相談・経済的支援・学生の健康管理・課外活動・学生
(6)教育環境	国土交通省における一種養成施設設置基準
(7)学生の受入れ募集	募集活動目標と施策
(8)財務	事業計画・主要財務数値・予算書・監査計画書
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準
(10)社会貢献・地域貢献	環境への取組み・社会貢献事業に対する取組み(地域清掃)
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況  
 「学生/保護者に選ばれる学園の確立」「企業に選ばれる学園の確立」という2つの大きな柱で、各部室で方針系統図を策定。(各施策と管理項目)した上で取組んだ。活用例として、コロナ影響による進級・卒業・資格取得を最優先に、影響を最小限にとどめるためにWEB化を推進、IPAD学生全員配布、オンデマンド配信、CS評価実施。学生目線で、IT化の推進と教育の質の維持・向上の両立を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
金子 明様	埼玉県 ふじみ野市 市役所	R2年4月1日～R4年3月31日	自治体代表
森山 吉樹	株式会社 オートテックジャパン	R2年4月1日～R4年3月31日	企業等委員
松岡 孝	本田技研工業株式会社	R2年4月1日～R4年3月31日	企業等委員
関谷 雅裕	株式会社 ホンダカーズ 埼玉	R2年4月1日～R4年3月31日	企業等委員
藤井 潤	当校 後援会OB	R2年4月1日～R4年3月31日	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和3年7月1日  
 (ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( )  
 URL: [http://www.hondacollege.ac.jp/honda\\_e/gaiyou/iouhoukoukai.html](http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/gaiyou/iouhoukoukai.html)

(別途、以下の資料を提出)  
 \* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2  
 \* 自己評価結果公開資料  
 \* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況」

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 学校教育法に基づき、学生・保護者・自動車業界関係者など当該専門学校に関する関係者理解を深め、これらの者と連携協力すると同時に、学校教育法をはじめ、関係法令で定められた目的を実現するための公的な教育機関として、教育活動・自動車に関する情報、その他の学校運営に関する情報を積極的に提供していく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の志・学園の目的・教育方針 年度における重点課題
(2) 各学科等の教育	入学・卒業情報・カリキュラム・資格、国家試験結果・進路
(3) 教職員	教職員数・組織情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業との連携による取組み状況(インターンシップ)
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・課外活動(同好会・ボランティア活動)
(6) 学生の生活支援	学生相談・経済的支援・学生寮・保護者との連携(後援会活動)
(7) 学生納付金・修学支援	納付金情報・奨学金制度
(8) 学校の財務	主要財務数値
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価結果・改善施策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
 URL: [http://www.hondacollege.ac.jp/honda\\_e/htec/kigyou.html](http://www.hondacollege.ac.jp/honda_e/htec/kigyou.html)

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発科 開発・設計工学コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			図面・材料	自動車を取り扱う上で必要な材料の種類、製法、特徴、用途及び図面に関する一般知識について理解習得する。	1通	18.0		○			○	○			
○			基礎自動車工学	これから学ぶにあたり、基本的な自動車とは何かについて理解する。整備士にかかわる工学的な基本事項理解する。	1通	14.4		○			○	○			
○			自動車総論	自動車に関する物理・数学、環境、内燃機関等基礎概論を理解習得する。	1後	18.0		○			○	○			
○			総合自動車Ⅰ (総合自動車工学)	シャシ・エンジン等に関する自動車工学の復習を行い、総合理解を深める。	1前 2前	14.4		○			○	○			
○			エンジン構造	原動機及びエンジン系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する。	1前	72.0		○			○	○			
○			シャシ構造	車体各部及び車体系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する。	1前	72.0		○			○	○			
○			エンジン整備	エンジン及びエンジン系電装品の点検整備、および電子制御燃料噴射装置の基礎を学ぶ。また二輪車固有のエンジンに関する機構・整備を学ぶ。	1後	50.4		○			○	○			
○			シャシ整備	車体、動力伝達、変速装置、走行装置、懸架装置、灯火類などのシャシ系電気装置の点検整備を学ぶ。また二輪車固有のエンジン以外の機構・整備を学ぶ。	1後	50.4		○			○	○			
○			総合自動車Ⅱ (総合自動車工学)	シャシ・エンジン等に関する自動車整備の復習を行い、総合理解を深める。	1後 2後	14.4		○			○	○			
○			二輪車整備	二輪車について、エンジン、車体、電装品の理解度確認	1後	3.6		○			○	○			
○			機器の構造取り扱い	整備に必要な機器の動作原理・取り扱い・メンテナンスを学ぶ。基本的な作業の仕方や正しい使用方法などを理解する。	1後	34.2		○			○	○			
○			工作作業	整備に必要な機械加工技術を理解習得するとともに、工作機器の基本的な取り扱いを覚える。	1前	23.4					○	○	○		
○			測定作業	整備に必要な計測機器の正しい作業方法を理解習得する。	1通	45					○	○	○		
合計			73科目		4354.8単位時間(単位)										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする (留意事項)							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		26週						
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合															
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。															

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発科 開発・設計工学コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			実エンジン構造(実二輪構造含む)	(四輪・二輪) エンジン本体・潤滑・冷却・燃料装置・吸排気装置及びエンジン系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能と故障整備概要を理解習得する。	1前	144				○	○		○		
○			実シャシ構造(実二輪構造含む)	(四輪・二輪) クラッチ・AT/MT・サス・ブレーキ・ステアリング・ボディ及びシャシ系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能作動と故障整備概要を理解習得する。	1前	144				○	○		○		
○			実エンジン整備(実二輪構造含む)	前期エンジン系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する。	1後	151.2				○	○		○		
○			実シャシ整備(実二輪構造含む)	前期シャシ系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する。	1後	151.2				○	○		○		
○			実二輪車整備	通年の二輪車実習にて得た分解・組立方法・点検・調整方法を確実に理解する。	1後	7.2				○	○		○		
○			総合自動車整備実習	1年：シャシ・エンジン等に関する実習における理解度を確認する。 2年：故障探求や点検方法など実習における理解度を確認する。	1通 2通	54				○	○		○		
○			応用エンジン(ディーゼル自動車含む)	エンジン総論バルブ機構、可変バルブ開閉機構、ロータリエンジン、燃料装置、LP G、過給機など、エンジンの構造機能(応用編)及び、燃料油脂などについて理解習得する。	2前	66.6			○		○		○		
○			応用シャシ	シャシ性能総論、AT、油圧PS、アライメント要素、クラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、ABS、TCS等の機能構造作動等について理解習得する。	2前	66.6			○		○		○		
○			自動車総論Ⅱ	走行性能、プラネタリギヤ、エンジン性能、熱効率と仕事率、電気効率、オシロスコープ波形、軸重計算、制動性能等。	2前	34.2			○		○		○		
○			故障原因探求エンジン(ディーゼル含む)・シャシ	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する。電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する。整備に関する制度等の基本的な事項を理解する。	2後	48.6			○		○		○		
○			故障原因探求シャシ	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する。電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する。整備に関する制度等の基本的な事項を理解する。	2後	19.8			○		○		○		
○			新技術	自動ブレーキ等の自動運転に関する仕組み・センサー類の整備点検方法を理解する。	2前	14.4			○		○		○		
合計					73科目		4354.8単位時間( )							単位)	
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			26週				
(留意事項)															
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合															
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。															

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発科 開発・設計工学コース) 令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				自動車検査	自動車の点検車検要領・診断機器・大型自動車・検査機器取り扱いなど自動車の検査や各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する。	2後	23.4		○			○				
○				自動車法規	法規道路運送車両法、道路運送車両の保安基準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士としての知識と技術を習得して正しい法規の運用能力を身に付ける。	2後	25.2		○			○				
○				実応用エンジン(ディーゼル含む)	エンジン・可変バルブ機構、ロータリ、LPG燃料装置、過給機、ラッシュアジャスタなどエンジン新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する。	2前	104.4					○	○			
○				実応用シャシ	オートマチックトランスミッション、パワーステアリング、アライメントなどシャシ新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する。	2前	104.4					○	○			
○				実故障原因探求エンジン(ディーゼル含む)	エンジンにおける機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得実践する。電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する。	2後	97.2					○	○			
○				実故障原因探求シャシ	シャシにおける機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得実践する。電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する。	2後	41.4					○	○			
○				新技術	ホンダセンシングにおけるエーミング等の自動運転に必要な機器の校正方法などを理解する。アトキンソンサイクルの実物の分解組立を通じ構造理解。	2後	25.2					○	○			
○				実践自動車整備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施されている実践的な整備内容などを実践し、その手法等を理解習得する。(企業実習含む)	2通	126					○	○			○
○				実自動車検査	自動車の検査について実習作業を通じ理解習得する。各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する。	2前	57.6					○	○			
○				安全運転	安全運転に関する心構えを認識し、今後の運転等の意識改革を図るとともに事故減少に取り組む。	1前 2前	37.8		○		△	○	△	○		
○				接客実務	サービスにおける接客実務の理解の幅を広げ、実践できるようにする。(SE3級)	1後 2前	37.8		○							○
○				特別講座(損害保険取得)	販社就職にニーズの高い資格:損害保険基礎単位を取得するための講座。	2前	18		○					○	○	
○				特別講座(総合自動車整備)一級、開発コース	自動車検査業務や点検整備方法など、実践的な整備内容を知り、その手法等の理解、また、二級整備士として必要な知識の定着を最終仕上げを目指す。	2後	97.2		○					○		
○				自動車の運動力学	自動車の運動等について理解習得する。	3前後	79.2		○					○		
○				材料実験	機械材料の基本となる性質を理解する。	3前	21.6		○		○	○		○		
合計					73科目			4354.8単位時間(単位)								
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする (留意事項)										1学年の学期区分		2期				
										1学期の授業期間		26週				
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合																
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。																

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CATIA-DR	CATIA-V5を用いて作り上げた仕様に対して製造者が生産・加工可能な図面作成を行えるようにする。	3前	64.8				○	○		○		
○			CATIA-PD I	CATIA-V5を用いて3D形状を作成する。作成後にアセンブリー（組立）を行い、重心位置や体積、密度を求める。	3前	79.2				○	○		○		
○			CATIA-PD II	CATIAのソリッドモデリングにおける応用形状の作成法を習得する。	3後	21.6				○	○		○		
○			CATIA-PD III	複雑な形状の部品の3Dモデル作成能力を習得する。	3後	36				○	○		○		
○			CATIA-GSD	CATIA-V5のサーフェス機能を用いて、いろいろな曲面を作成する。	3前	36				○	○		○		
○			CATIA総合演習	3Dモデルを元に2D図面化、及び要求仕様・生技性を加味した指示法を演習を通して身に付ける。	3後	25.2				○	○		○		
○			CATIA-CAE	作成したCATIAモデルについて、使用環境で発生する応力・変位を解析する手法を習得する。	3後	43.2			○	△	○		○		
○			信頼性工学	開発時における要求性能・信頼性の設計反映ロジックを習得する。仕様の性能・信頼性を解析評価するロジックを習得する。	3後	21.6			△	○	○		○		
○			電気電子基礎	電気電子部品のしくみや使い方を学び、実際にはんだごてをつかって簡単な回路を製作する。	3前	39.6				○	○		○		
合計					73科目		4354.8単位時間(								単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アルゴリズム基礎	フローチャートを使って、プログラムの基礎を学ぶ。	3前後	90		○			○		○		
○			機械設計材料力学Ⅰ	自動車やオートバイ、ロボット等の基本的な機械要素を理解し、材料力学の基礎である応力の基本概念を学ぶ。	3前	43.2		○			○		○		
○			機械設計材料力学Ⅱ	より実践に則した部品の設計や使い方について学ぶ	3後	39.6		○			○		○		
○			金型Ⅰ	金型の基本概念を学ぶ。実際に自動車やオートバイ、パワープロダクツの部品に使われている例や種類、特徴や注意点を学ぶ	3後	54		○			○		○		
○			機械加工Ⅰ	旋盤、フライス盤の基本的な使い方や安全について学ぶ。	3前	86.4				○	○		○		
○			アーク溶接	アーク溶接の安全特別教育を行い、資格を取得する。	3前後	25.2				○	○		○		
○			モデルベース開発基礎	MATLAB, Simulinkを使用して、ブロック線図によるモデル作成・動作を体得する。MBD開発に使われているソフトを使用し、開発環境を実体験する	3前	18		○		△	○		○		
○			モデルベース開発応用	MBD開発環境にて台車型倒立振子を製作し、MBD開発フローと制御工学を学ぶ。	3後	18		○		△	○		○		
○			マイコン制御基礎	組み込みプログラムにより、LEDの点灯制御やモーター制御を体験し、マイコンの基本機能、使い方を学ぶ	3後	54		△		○	○		○		
合計					73科目	4354.8単位時間(								単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			部品開発演習	模擬開発の実践を通して製品を開発するためのフロー・ロジック・観点の習得を行う。	3後	158.4		△		○	○		○		
○			思考法基礎	Hondaの品質および仕事の基本の考え方を学ぶ。QCストーリーを実践する事で問題解決手法を学ぶ	3前	28.8		○	△		○		○		
○			SPI	企業採用試験で多く利用される適性検査SPIの演習を実施し就職に必要な読解力、基礎学力を身に付ける	3後	18		○			○		○		
○			基礎数学	制御の基礎になるエンジニアとして必要な基礎知識として中学卒業程度の数学を一般教養として復習する。	3前	36		○			○		○		
○			OAソフト	OFFICEの3ソフトについて基本から応用までを学習する。	3前	50.4		○		△	○		○		
○			CAE応用	CAEの解析結果を元に設計検討を行う方法を学ぶ。	4前	34		○			○		○		
○			四力学概論	設計に必要な基礎知識となる「材料力学」「流体力学」「熱力学」「機械力学」について講義を通して概要を学ぶ	4後	21.6		○			○		○		
○			機械加工Ⅱ	機械工の基本および、NC(数値制御)工作機械により機械加工を行うための、基本的な考え方と制御データ作成の基礎を習得する	4前後	93.6					○	○	○		
合計					73科目	4354.8単位時間(								単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 開発・設計工学コース) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			機械金型設計	金型の構造や特徴、加工方法について学ぶ。	4前	48		○			○		○		
○			電子制御	車両形状・重量に対する要求駆動性能から詳細仕様を決定する「システム設計手法」と「バッテリー」「インバータ」「モータ」の3要素における構造と制御について「E-Drive設計手法」を理解する	4前後	68		○		○	○		○		
○			マイコン制御応用	3年次に行なってきたマイコン制御基礎を再学習し、より複雑なプログラムを作成することでマイコンに備わっている機能の理解を深める。	4前	39.6		○		○	○		○		
○			プログラム開発	CAN通信を使用して、車両の各種情報を取得するデータロガーを作成し、CAN通信の理解を深める。	4前	57.6		○		○	○		○		
○			モデルベース開発基礎	MATLAB, Simulinkを使用して、ブロック線図によるモデル作成・動作を体得するMBD開発に使われているソフトを使用し、開発環境を実体験する	4前	18		○		△	○		○		
○			モデルベース開発応用	MBD開発環境にて台車型倒立振子を製作し、MBD開発フローと制御工学を学ぶ。	4後	18		○		△	○		○		
○			卒業研究	研究テーマに沿って企画・設計・制作・テスト・結果報告まで行う。	4前後	640.8		△	△	○	○		○		
合計					73科目	4354.8単位時間(									単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。